広島県高次脳機能センター機関紙

Hiroshima Higher Brain Function Center

ひろしま県 高次脳機能センターだより

第９号

令和元年９月２日 発行

「田園風景」（切り絵）
外来患者様の作業療法の作品です。

CONTENTS

特集
高次脳機能障害のある方の就労支援 …②
利用者のページ
Ｍ様 ……④
コラム等
コラム等……⑤
関係機関ニュース
お知らせ ……⑥
障害者支援施設 広島市立自立訓練施設 …⑦
案内
診療案内・スタッフ紹介等

ごあいさつ

広島県高次脳機能センター
センター長 近藤 啓太

日頃より高次脳機能障害者の支援にご協力いただきありがとうございます。今年度も年1回の広島県高次脳機能センターの機関紙を発刊することができました。今年度の機関紙は「就労支援」にスポットを当てております。高次脳機能障害者の就労支援は支援モデル事業が開始された当初から重要なテーマに位置付けられております。日々の診療を通して、高次脳機能障害者の就労支援には多くの時間と多くの関連機関との連携が必要であり、医療機関である当センターのみで完結するものではないと感じております。そのような現状について本紙面にてご紹介しております。

また恒例の関連機関ご紹介のページでは昨年度より新たに生活訓練を立ち上げられた「広島市立自立訓練施設」を特集しております。利用者さんの声の紙面では、子供の頃の交通事故で高次脳機能障害となり、障害を抱えながら送った学生生活について寄稿頂きました。紙面を借りてお礼申し上げます。

この度の機関紙の内容が、高次脳機能障害の支援に日頃より尽力されている皆様に少しでもお役に立つ内容であれば幸いです。

高次脳機能障害のある方の就職までの過程は様々です。今回は，高次脳機能センターで診断，評価，リハビリテーションを行った場合の就労支援の主な流れをご紹介します。
高次脳機能センターは，それぞれの段階で関係機関と連携し，就職後も継続できるよう支援しています。

就労定着支援とは？

就労移行支援等を利用して一般就労した方に対し，就労に伴う生活面の課題に対応できるよう，事業所や家族との連絡調整や課題解決に必要な支援を行います。

就職後半年間の定着支援に加え，最大３年間の利用となります。（障害福祉サービスの就労定着支援の他に，障害者就業･生活支援センターも定着支援を行っています。）

相談
職場への訪問

就労系障害福祉サービス
（就労移行支援・就労継続支援Ａ型・就労継続支援Ｂ型）

障害者就業・生活支援センター

障害者職業センター

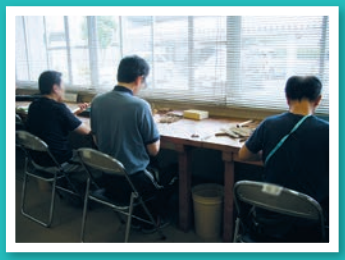
ハローワーク

就労定着支援
（就労支援事業所など）

仕事を安定して続けるために，
支援機関のフォローアップを受けることが大切です。

就労移行支援

障害者支援施設あけぼの
就労準備・就職活動　**２年間**



主に作業課題に取り組みながら，一般就労（復職を含む）に必要な知識，能力の向上を目指します。関係機関と連携して就職活動を進めていきます。

就職

フォローアップ

高次脳機能センターに通院を継続しながら，就労支援事業所や障害者就業･生活支援センターなどのフォローアップを受けることもできます。

特集　高次脳機能障害のある方の就労支援

診断・評価
リハビリ

高次脳機能センター

自立訓練（機能訓練・生活訓練）とは？

地域生活を営む上で必要な身体機能や生活能力の維持・向上を目指した訓練などを行います。

利用期限は，機能訓練１年６ヶ月，生活訓練２年です。

社会生活力の向上
生活の環境調整

自立訓練施設
（機能訓練・生活訓練）

就労系障害福祉サービスとは？

就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練などを行います。

就労移行支援は利用期限が２年です。

就労支援継続Ａ型（雇用型）・Ｂ型（非雇用型）の利用期限はありません。

就労準備
就職活動

高次脳機能障害のある方の就職（復職）のためには，十分に準備をすることが必要です。また，就職（復職）後に本人や職場が難しさに気づくこともあります。

事例 Ａさん

高次脳機能センター

診　断
評　価
入院リハ

約３ヶ月

生活訓練

障害者支援施設あけぼの
社会生活力の向上・生活の環境調整　２年間

日常生活訓練，代償手段の獲得（メモリーノートの活用），外出訓練，作業課題，認知課題など，個別のニーズに合わせた目標を設定して取り組みます。

利用者のページ

Mさんは、中学校二年生の時に交通事故で受傷されました。その後、中学校に復学し、高等学校を卒業されました。高校卒業後、福山大学人間文化学部心理学科に進学され、今春、卒業されました。今年6月には障害者支援施設あけぼの（生活訓練）に入所し、次のステップを目指して頑張っておられます。

Mさんに、大学時代の思い出、将来への思いなどをインタビューしました。

Q 心理学科を選んだ理由を教えてください。

A きっかけは、高校3年生の時から参加している夢々（ゆゆ）（当事者グループ）に心理学科の先輩がいたことと知っている先生がいたことです。障害を患っている人が自暴自棄にならずに前へ進んでほしいと思い、心理学科を選びました。

Q 大学生活で楽しかったことは何ですか。

A 大学の帰りに友人とご飯を食べに行ったり、飲み会に参加したりしたことです。友人が増えて、先輩にもお世話になりました。高校と違って自由でのんびりできました。

Q 難しかったことはありますか。

A 集中力が足りなくて、授業中に寝たり、友人とおしゃべりしたりしてしまいました。忘れ物をしたり、出された課題が何だったか覚えられなかったりしました。

Q どうやって克服しましたか。

A 手帳を常に持っていて、必要なことをメモしていました。友人に教えてもらうこともありました。SNSの学生グループメールでこまめに情報を確認しました。

Q 卒論のテーマは何ですか。どんな研究をしましたか。

A 「高次脳機能障害者の当事者研究」です。自分自身が何故この障害を患ったか、その後、どんなリハビリをしたかをテーマに、主治医やリハビリの担当者にインタビューをしてまとめました。

Q 大学生活、卒論で得られたことは何ですか。

A 自分がどんなサポートを受けてきたのかが分かりました。障害を患っても、一人ではなくて身近な人がいることを知りました。

Q 今後に向けた思いを聞かせてください。

A 一人暮らしができるよう自立のための訓練をするためにあけぼのに入所しました。誰にも迷惑をかけず、ニートにもならず、無駄な生き方をしない社会人になりたいです。

リハスタッフより

学年が上がるごとに、大学の先生と情報交換を行いました。検査結果をもとに、記憶力や知的機能、リハビリでの様子などをお伝えし、大学での様子も教えていただきました。そして、大学で行う支援、リハセンターで行う支援を確認し、共有するようにしました。課題の提出日の確認はリハビリの中で一緒に行うこともありましたが、一番身近なご両親の援助も大きかったと思います。

リハスタッフより

卒論を仕上げることは、Mさんにとっても大変な作業だったと思います。ご家族、大学の先生とも情報共有しながら、各リハビリ担当も卒論作成に関わらせていただきました。大学への提出期限の確認や提出に向けて、具体的に何をいつまでに取り組まなければいけないのかスケジュールの確認をしていました。また、インタビューをするための段取りやアポイントメントの取り方を場面を想定しながら練習しました。卒論が完成し、大学でのプレゼンテーションでは先生方から褒められたと、とても嬉しそうに話してくださいました。

両親より

交通事故で障害を患っても、大学へ進学したい一心で高校も頑張り、大学入学への切符を手にすることができました。当初、他の学部への進学を考えていました。ある時、高次脳機能センターの掲示板に福山大学心理学科「夢々」のポスターを見つけ、気になりながらもアクセスすることができなかったのですが、オープンキャンパスで「夢々」で活動されている先生や学生さんたちの人柄や活動に心打たれ、本人と心理学科への進路一本に決め、親子で受験に取り組みました。

大学へはとにかく真面目に通い、講義を受けていました。その甲斐あって1年生から着実に単位を取得し、4年生で卒業することができました。学生生活の中で、先輩、同級生、学部の違う同級生、後輩、先生、リハビリの先生方とたくさんの方たちに助けていただき、親子共々感謝しております。皆様の支えがあり、本人も頑張ることができたのだと思います。「真面目に優るものはない」とことわざにありますが、本当に4年間頑張ってきたと我が子ながら感心しました。この真面目さ、頑張りがこれからも続けられるなら、これからの訓練も必ずやり遂げられ、良い結果が出ると確信しております。

コラム

就労と就労定着へむけた支援

関根 真悠

就労は高次脳機能障害の方の最も大きな目標の一つです。当センターにも、職業生活を送っている途上で疾病・交通事故・労災事故・スポーツ事故など様々な原因で高次脳機能障害を有し、復職や就労を希望してリハビリテーションを継続しておられる方が多く通院しておられます。

発症または受傷後、御本人や周囲の方は職業生活復帰のための課題は麻痺や外傷など身体面の改善と思われがちです。しかし身体面の課題と同様もしくはそれ以上に大きな課題となるのが「見えない障害」である高次脳機能障害です。

本人にも周囲にも「見えない障害」である高次脳機能障害を抱えて職場復帰した結果、能力や勤労意欲を欠くとみなされてしまいやすく注意が必要なのです。

現在の御本人の能力を最大限に生かした就労を可能とするまでに、当センターではリハビリテーションの中で御本人の症状の軽減や、御本人御家族の障害認識への促し、受け入れ側となる職場へ向けて配慮事項など情報提供を行うなど支援の内容は様々ですが、個別性のある柔軟な介入を心がけています。

それでも、高次脳機能障害はその障害特性より就労後に新たな問題を生じてきやすい傾向があります。私たちは就労がゴールなのではなく、社会復帰への1ステップであるととらえ就労の定着へ向けた長期的な切れ目のない支援が必要と考えています。時には年単位となる長いお付き合いとなりますが、どうぞよろしくお願い致します。

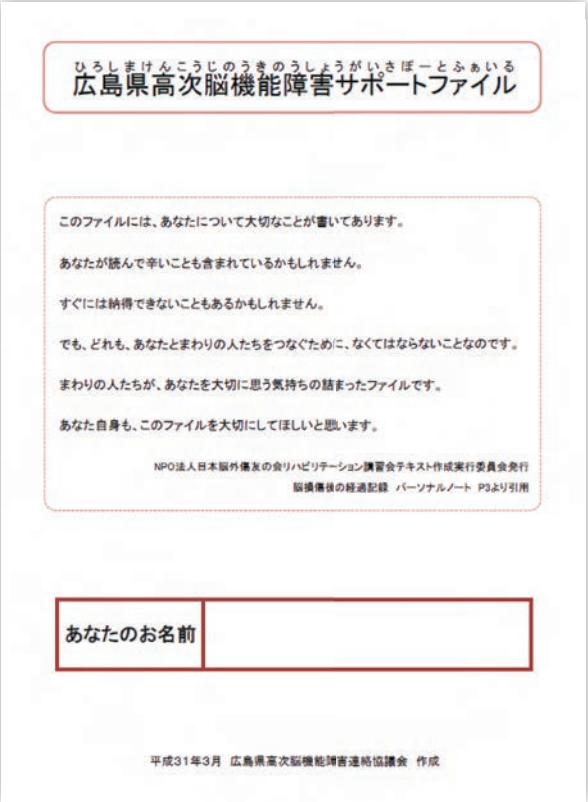
『広島県高次脳機能障害サポートファイル』を作成しました

広島県高次脳機能障害サポートファイルは、広島県高次脳機能障害連絡協議会ワーキング会議において、高次脳機能障害の当事者やそのご家族が適切なサポートを受けることができるよう、ご自身に関する重要な情報の管理、支援者との円滑な連携に活用していただくことを目的に作成しました。

サポートファイルは高次脳機能障害の支援に必要と思われる項目を整理し、『全体支援経過表』『本人情報』『医療情報提供のお願い』『就労情報』『高次脳機能障害確認リスト』『配慮して欲しいこと』『生活の大変さ指標』から構成されています。

例えば、手帳や年金診断書作成時に生活面の困りごとを医師に伝えるとき、福祉サービスの利用や就労支援など新たな支援を受けられるときなどに必要な情報を事前にまとめていただくことができます。検査結果や診断書の写しなど、大事な書類も一緒に保存されると便利です。また、サポートファイルを活用することで、何度も同じことを説明する負担や、時間経過により忘れてしまったことを調べなおす負担も軽減されます。

サポートファイルは広島県高次脳機能センターのホームページ（各種資料と研修会情報）よりダウンロードしていただけます。是非、ご活用下さい。



ひろしまけんこうじのうきのうしょうがいさぽーとふぁいる
広島県高次脳機能障害サポートファイル

このファイルには、あなたについて大切なことが書いてあります。

あなたが読んで辛いことも含まれているかもしれません。

すぐには納得できないこともあるかもしれません。

でも、どれも、あなたとまわりの人たちをつなぐために、なくてはならないことなのです。

まわりの人たちが、あなたを大切に思う気持ちの詰まったファイルです。

あなた自身も、このファイルを大切にしてほしいと思います。

NPO法人日本脳外傷友の会リハビリテーション講習会テキスト作成実行委員会発行
脳損傷後の経過記録 パーソナルノート P3より引用

あなたのお名前	

平成31年3月 広島県高次脳機能障害連絡協議会 作成

広島県高次脳機能センターのホームページアドレス

https://www.rehab-hiroshima.org/kojino/

広島県高次脳機能センター　検索

関係機関ニュース

勉強会情報

家族セミナーのご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、高次脳機能障害者やそのご家族、高次脳機能障害に関心をお持ちの方を対象に学習会を開催しています。

場所：広島県立障害者リハビリテーションセンター2階　多目的室
（都合により変更する場合があります）

日時：第一金曜・第三火曜の
14時15分～14時55分

内容：月ごとに、
①「脳障害とその後遺症について」
②「リハビリテーションと本人への関わり方について」
③「福祉制度について」
という内容を扱っています。①は10月・1月に、②は8月・11月・2月に、③は9月・12月・3月に実施予定です。

＊参加を希望される方は、参加申込書にご記入のうえ、高次脳機能センターにお申し込みください。当日参加も可能です。

家族会情報

家族会のご案内

当センターにて、患者様のご家族主催の家族会が開催されています。日頃の思いや悩みを語り合うことで、少し気持ちが楽になるかもしれません。また、ご家族ならではのアドバイスもいただけますよ。

家族会「シェイキングハンズ」
第一火曜　13時半～
家族会「ケセラセラ」
第一金曜　11時～

家族会情報

『日本高次脳機能障害友の会 第19回全国大会』は香川県で開催

今年度の「日本高次脳機能障害友の会全国大会」は令和元年10月18・19日の両日で、香川県にて開催されます。皆様、ぜひご参加ください。

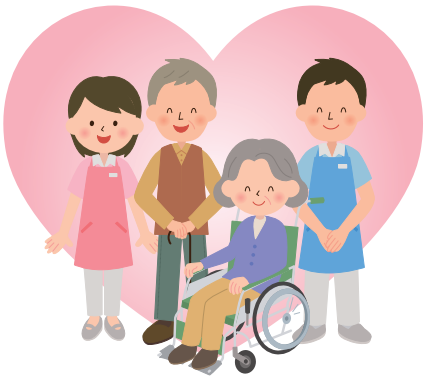
研修情報

令和元年度高次脳機能障害研修会のご案内

令和元年11月9日（土）広島県健康福祉センターにて開催します。

この研修会は、日本損害保険協会の助成を受け、高次脳機能障害に対する正しい理解と認識を深めるために実施しています。今回は、「高次脳機能障害の理解と対応」をテーマに、帝京平成大学教授廣實真弓氏と、栃内第二病院リハビリテーション部公認心理師山舘圭子氏にご講演をいただく予定です。

高次脳機能障害は外見からは症状が分かりづらいため、周囲から誤解を受けやすい面があります。この講演を聞いていただき、高次脳機能障害を一人でも多くの方に理解していただければと思います。参加料は無料です。沢山の方の参加をお待ちしております。



施設紹介

障害者支援施設 広島市立自立訓練施設

当施設は広島市安佐南区、西風新都セントラルシティこころ住宅団地内に立地しており、広島市立リハビリテーション病院（以下「リハ病院」）、広島市身体障害者更生相談所とともに、広島市総合リハビリテーションセンター（以下「総リハ」）を構成する、障害者総合支援法に基づく障害者支援施設です。

リハ病院は一〇〇床の回復期リハビリテーション専門病院で、広島県高次脳機能障害地域支援ネットワークの医療相談窓口である地域支援センターにも指定されています。総リハでは、病気や事故等による中途障害者の社会復帰促進を目的に、リハ病院が医学的リハビリテーションを、自立訓練施設が社会的リハビリテーションを担当し、相談・評価から医療・訓練、就労支援までの一貫した社会復帰を支援しています。

高次脳機能障害者の支援 生活訓練始めました

当施設では日中サービスとして、平成20年4月の開設当初から、脳血管障害や頭部外傷等による障害がある方を対象に、自立訓練（機能訓練）を実施していますが、開設当初から高次脳機能障害がある方の利用割合が半数近くであり、身体的な機能訓練とともに、認知面の訓練にも取り組んできました。そこで平成30年度から、改めて高次脳機能障害者への支援を強化するため、自立訓練（生活訓練）を開始しました。定員は本年7月現在、機能訓練48人、生活訓練12人です。定員の空き状況により、併設のリハ病院のほか他の回復期病院や在宅の障害者のご利用を受け入れています。

生活訓練の対象となる方は、認知機能の訓練が必要であっても、それを支える体力や持久力の底上げから取り組む必要がある方も多くおられます。当施設では、目標とする社会復帰に向けて、どのような取り組みが必要か、そのために当施設のどのような利用が最適かご相談をお受けしています。また、広島県立障害者リハビリテーションセンターの高次脳機能センターや障害者支援施設あけぼのなど、県内の他の支援機関等とも連携して、高次脳機能障害がある方の社会復帰を支援してまいります。

これからさらに力を入れたい就労支援

当施設ご利用者の利用終了後、社会復帰の姿である新たな地域生活の形はさまざまですが、近年の傾向として、復職や就職または就労継続サービスの利用など、何らかの形で就労される方が増えてきました。生活訓練の実績はまだまだこれからですが、当施設では自立訓練ご利用者の社会復帰に向けて、就労支援にもさらに力を入れていきたいと思います。

園芸療法の様子　ジャガイモの収穫

生活訓練プログラムの様子

広島市総合リハビリテーションセンター全景

【お問い合わせ】
〒731-3168
広島市安佐南区伴南１丁目39番１号
広島市立自立訓練施設
TEL：082-849-2868／Fax：082-849-2872
URL：http://soriha-hiroshima.jp

スタッフの紹介

コーディネーター　受付

心理士

医師

言語聴覚士

作業療法士

編集後記

スタッフ紹介のコーナーで、今年は訓練部門のスタッフも紹介させていただいています。今後も多職種が連携して取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

おことわり

原稿・写真については、ご本人の承諾を得て掲載しています。

診療案内

□ 診察の流れ

予約制になっております。予めお電話でご予約の上ご来院ください。

① 電話予約

082－425－1455（代表）高次脳機能科受付　内線237

受付時間　月～金　9:00～17:00

専門のコーディネーターが対応します。

相談のみでもお受けします。

② 高次脳機能科・神経内科　外来診療

脳神経に関する専門医が診察します。　（H31.4.1～）

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	近　藤 関　根	関　根	近　藤 関　根	近　藤 関　根	近　藤 細　見
13:00～13:30	近　藤	（休診）	近　藤	近　藤	近　藤

診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、可能であれば紹介状・頭部ＣＴやＭＲＩ等の画像をお持ちください。

③ 入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。

〒739-0036 東広島市西条町田口295-3　TEL 082-425-1455　FAX 082-425-1094